

経営発達支援計画

令和2年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

地域経済動向調査レポート

～京丹後市版～

(令和3年1月～令和3年3月)

京丹後市商工会

地域経済動向調査レポート—京丹後市版—

～ 緊急事態宣言の再発出を受け、引き続き厳しい状況が続く市内小規模企業 ～ 令和3年5月1日

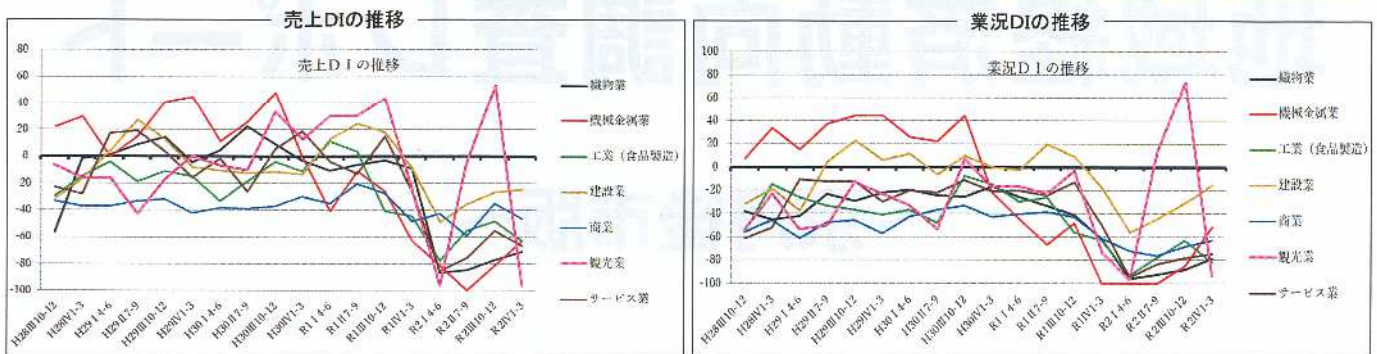
＜調査概要＞

【調査対象】地域内の小規模事業者等101件 【調査期間】2021年1月～3月

【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査票への選択記入式

＜産業全体＞ 緊急事態宣言の再発出を受け、引き続き厳しい状況が続く市内小規模企業

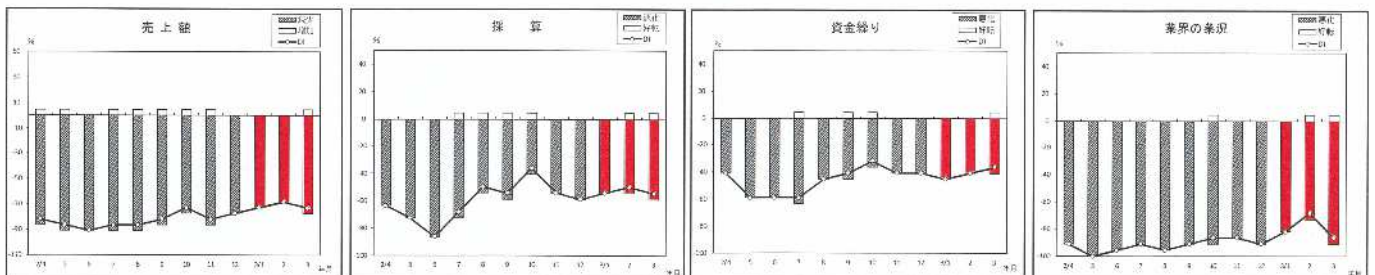
1月～3月の市内小規模事業者経済動向調査は、全項目DIで、対前月比で見ると緩やかな改善傾向を示すも、対前四半期では大幅に悪化した。再度の緊急事態宣言を受け、外出自粛要請や飲食店への営業時短要請等があった影響により、全体的に消費が落ち込み、全体的に厳しい状況が続いている。経営支援員からの報告では、コロナ過がこれ以上長期化すると、業種間の格差が広がると共に、地域全体が疲弊し、事業継続が困難な事業者が増加することを懸念するコメントが目立った。



※上記グラフは、過去の四半期毎の該当DIの平均値を算出しグラフ化したもの

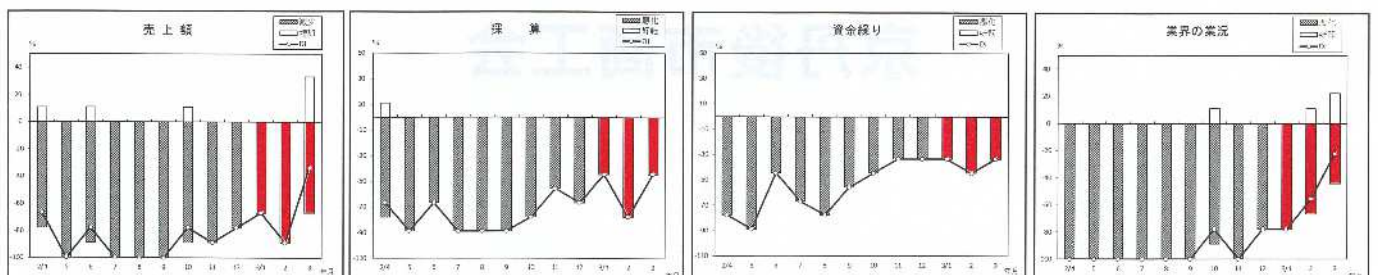
織物業 需要の低迷、展示会等の中止が重なり、苦しい状況が続く織物業

織物業においては、3月に入り、資金繰りDIが5ポイント改善しめすも、他の項目全てで、10ポイント以上悪化した。前四半期との比較では、売上DIと業況DIが小幅改善を示すも、採算DIと資金繰りDIは小幅に悪化した。経営支援員からは、他業種より落ち込みは少ないが、需要の低迷や展示会の中止等販路開拓手段の制限により、苦しい状況が続いているとの報告があった。また、支援策の拡充を望む声も多く見られた。



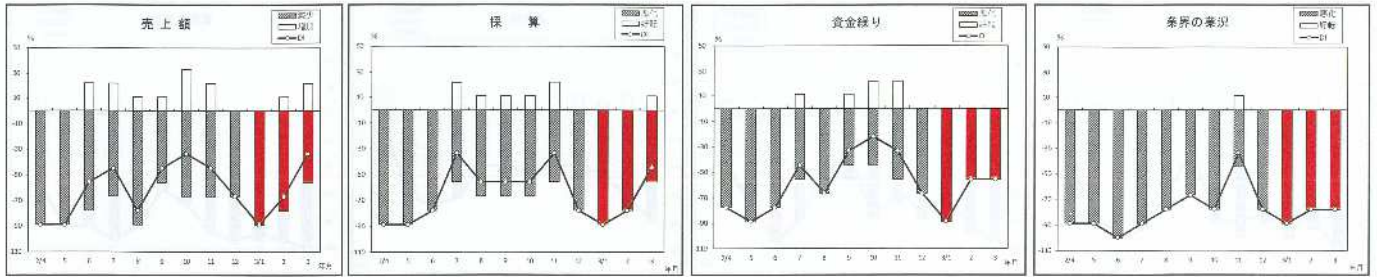
機械金属業 一部で回復の動きがあるものの、依然厳しい状況が続く機械金属業

機械金属業については、3月に入り、全ての項目で10ポイント以上大きく改善した。前四半期との比較でも同様に、全ての項目で大きく改善した。特に業況については、2期連続、2か月連続の改善傾向を示した。経営支援員からは、一部で医療衛生分野や自動車関連の売上増等により好調で前期の水準を上回った一方で、国内外の需要停滞や生産調整が続いており、厳しい状況との報告が見られた。



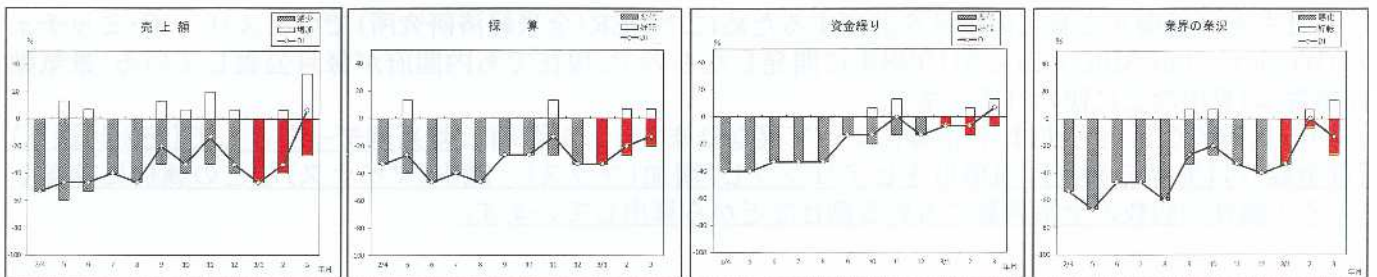
工業(食品製造) 引き続き内食向けは堅調であるが宿泊・飲食向けが大きく悪化した工業

工業(食品製造)は、3月に入り、売上DIと採算DIは30ポイントと大きく改善し、2ヶ月連続の改善。資金繰りDIと業況DIは横ばいであった。前四半期との比較では、全ての項目で10ポイント以上大きく悪化となった。経営支援員からは、緊急事態宣言下で内食向けが好調を維持しているものの、宿泊業や飲食業向けは取引先の時短営業や休業により厳しい状況となったとの報告があった。



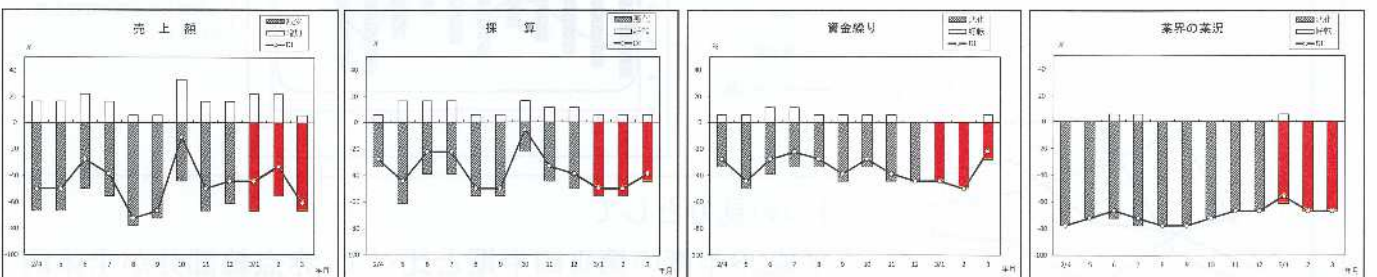
建設業 除雪需要や民需が好調を牽引するも、今後に不安が残る建設業

建設業では、3月に入り、業況以外のDIは全て10ポイント以上改善している。前四半期との比較でも全ての項目で僅かながら改善し、2期連続で改善傾向を示した。経営支援員から、民需の修繕工事やリフォーム工事等の受注、また降雪による除雪需要で好調を維持している。しかし、今後の受注見込みが減少傾向であることや、人手不足や資材不足・高騰により先行きを不安視する声が目立った。



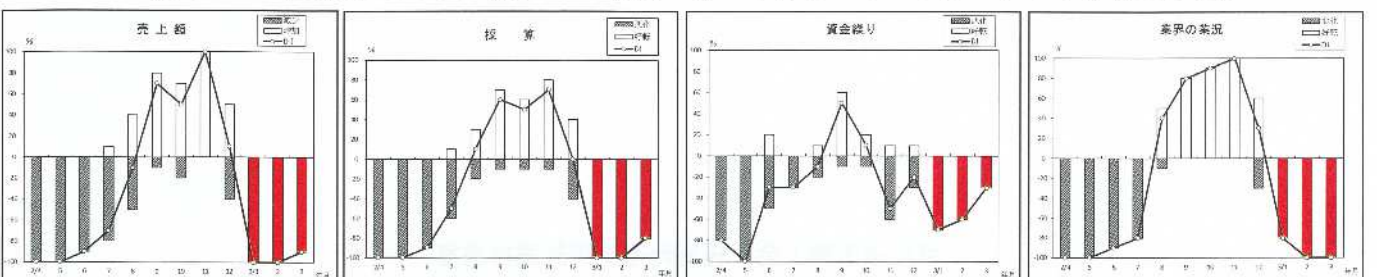
商業 巣ごもり需要が比較的堅調も、緊急事態宣言の影響で苦しむ商業

商業は、3月に入り、売上DIは27ポイント悪化、採算DIと資金繰りDIは其々 10ポイント以上の改善、業況DIは横ばいであった。前四半期との比較では、業況DI以外の全ての項目で悪化となった。経営支援員からは、引き続き、巣ごもり需要で比較的堅調であるが、仕入単価の高騰や販売先の飲食店等の休業等による需要減退によって、厳しい状況が続いているとの報告が見られた。



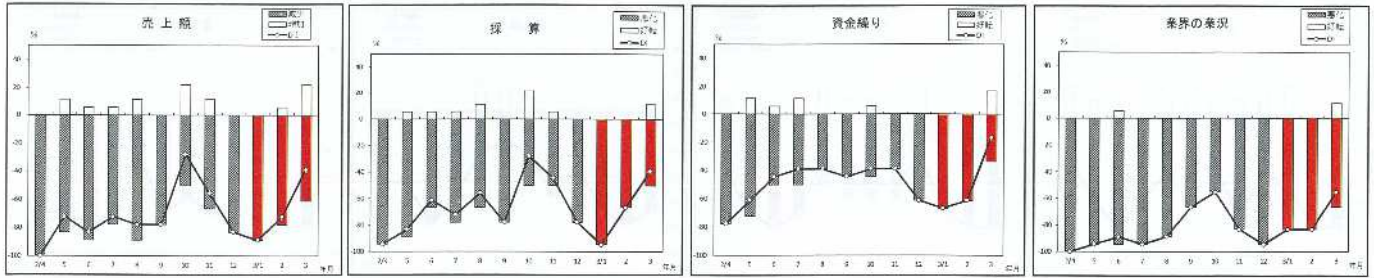
観光業 緊急事態宣言の影響で、再び危機的な状況に陥った観光業

観光業については、3月に入り僅かながら改善したが、全ての項目で回復基調から一転、大幅な悪化に転じた。前四半期との比較においても、全ての項目で大きな悪化を示した。経営支援員からは、GoToキャンペーンの停止や緊急事態宣言の継続により、予約のキャンセルが相次いで休業状態の事業者もあり、危機的な状況に陥っているとの報告があった。先行きが全く読めない状況に打つ手がないといったコメントが目立った。



サービス業(飲食店) 緊急事態措置協力金で乗り切るも、回復の兆し見えないサービス業

サービス業では3月に入り、全ての項目で27~45ポイントといった大きな改善を示した。しかし、前四半期との比較では、全ての項目で僅かながら悪化している。経営支援員からは、卒業入学シーズンといったイベント行事が、規模を縮小ながら実施されたことで売上増となったが、依然、来客数の少ない状況は続いており、緊急事態宣言による協力金等でなんとか乗り越えられる状況との報告が見られた。



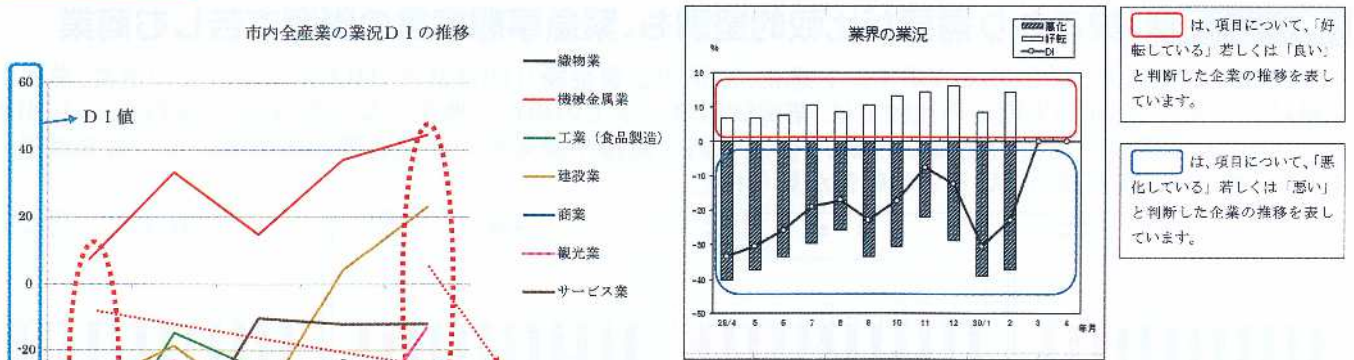
DI値とは

DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、企業の業況感や売上額などの各種判断を指数化したものです。一般的に「変化の方向性を捉える」といった特徴を持つといわれ、各指標の数値が上昇しているのか低下しているのかを調べ、景気がどれくらい波及しているかを把握するためのものです。

もともとは循環する景気の動きを計測するために、NBER(全米経済研究所)でウェスリー・C・ミッチェル(Wesley Clair Mitchell)らが1938年に開発したもので、現在でも内閣府が毎月公表している「景気動向指数」の算出などに使われています。

DIの具体的な算出方法は、各指標によって異なりますが、当会では、時系列データとして【売上】【採算】【資金繰り】【業界の業況】の4項目をヒアリングし、増加(プラス)/減少(マイナス)などの属性に分類して、その属性の個数の全系列数に占める割合などから算出しています。

グラフの見方



1つの見方として

平成28年度の第Ⅲ四半期と比べて、赤点線部分が全体的に上に移動して、上下範囲が大きくなっています。

このようなことから、市内産業全体の業況は、全体的に上向き傾向の一方で、格差が広がっているということが読み取れます。

※ご注意ください。これらのDI値が「絶対」若しくは「正しい」というモノではありません。あくまでも感覚的な指標であり、参考数値(材料)の1つに過ぎないことをご承知下さい。